

「御霊の実⑦ 誠実」

エペソ 3:14~21

2016.03.06 Alex Tan

1

概観

パウロはエペソの信者のために、イエス様の愛が知られるように祈っている。神様の誠実さ(Faithfulness)を知ることにより、信仰が前進し、自分の誠実さも成長していく。

アウトライン

1. 信仰の対象: 神様の誠実さ 出エ 3:11-12
2. 信仰の理解: 内なる人の存在 V14-V16
3. 信仰の成長: 愛の基礎と満たし V17-V19
4. 信仰の歩み: イエス様への集中 V20-V21

2

1. 信仰の対象: 神様の誠実さ 出エ 3:11-12

- 1) 誠実: 信頼できる、一貫性がある、裏切らない、約束を成就する。
- 2) 神様は契約を結ぶ神。モーセの時代、イスラエル人は奴隷となり、虐げられていた。アブラハムとの契約のためにエジプトから脱出。
- 3) 燃える柴でモーセが召された。自信のない、信仰が足りないモーセを励ました方法は、神様を理解するのに参考になる。
- 4) 神様の大きさ、偉大さ、御業、ご性質を知ることにより、信仰の成長が安定してくる。

3

2. 信仰の理解: 内なる人の存在 V14-V16

- 1) 信仰したら、内なる人と外なる人の存在を知る必要がある。肉と霊の区別。
- 2) 内なる人 = 生まれ変わった新しい自分。外なる人(肉) = 古い、過去の自分。心の変化が大切。御霊の働きであり、肉ではない。
- 3) 上よりの御霊の力で強められ、占有される必要がある。黒色 + 白色 ≠ 灰色。
- 4) 罪を告白してゆだねていく。過去の自分に捕らわれない。過去の自分を責めない。ひたすら前を見て、御霊の恵みに頼って生きる。

4

3. 信仰の成長: 愛の基礎と満たし V17-V19

- 1) 信仰により御霊が内住。内住の確信が大事 = 永住。愛に根ざし、愛に基礎を置く = 植物と建物を想定。根っ子と土台は愛でなければならない。
- 2) 人知をはるかに超えて、想像できないキリストの大きい愛を知ることは成長のカギ。私たちが愛に満たされることが御心である。
- 3) キリストの愛は夫婦愛にたとえられている(エペソ 5:31-32)。神の子として、キリストの花嫁として愛されている確信を持つ。

5

4. 信仰の歩み: イエス様への集中 V20-V21

① イエス様から目を離さない

信仰の創始者、完成者であるイエス様に集中する(ヘブル 12:2)。イエス様のために生きるすばらしさを学んでいく。

② すべては主の栄光となると信じる

過去の信仰の先輩に習い、前が見えなくても必ず最善の道が用意され、神様を信頼して歩み続ける(ヘブル 11:1-2)。モーセと同じように神様の業が少しずつ展開される。

6